

コミュニケーション能力と恩恵意識 — 日本語と中国語との対照の立場から —

盧 万 才

1. はじめに

国際化がますます進んでいる今日、コミュニケーション能力を重視した外国語教育が内外に普及されつつある。それは、コミュニケーションがスムーズに行われるかどうかはコミュニケーション能力と深くかかわっているからである。コミュニケーション能力には、次のような内容が含まれる。①文法能力、②社会言語能力、③談話能力、④ストラテジー能力、という四つの領域の知識とスキルである（青木2001）。

文法能力とは、文法規則、語彙、発音、文字表記といったことばの構造である。

社会言語能力とは、場面に応じて言語を適切に使用し、理解するための能力である。

談話能力とは、単独の文を超えて意味のまとまりを持つ談話という単位における理解と産出を行う能力のことである。

ストラテジー能力とは、コミュニケーション能力が十分でないとき、あるいは実際のコミュニケーションの場面の制約などによって、コミュニケーションがうまくいかなかったとき、それをどのように修復するかという能力である。

以上をまとめて、コミュニケーション能力を定義するならば、「限られた知識を駆使してさまざまな場面において、効果的、適切、かつ正確に言語を使用する能力である」といえよう。

しかし、上述の四つの領域を含む総体としてのコミュニケーション能力は、文法を中心とする語学教育によって、その一部が育つとしても、場面に応じて言語を適切に使う社会言語能力や、談話能力及びストラテジー能力において、日本語と中国語とは異なる側面を持っており、自動的に身につくものではない。したがって、これらの能力も文法教育と同様、語学教育の内容として研究し、教育しなければならないと思われる。

本論文は、外国語学習とコミュニケーション能力の育成との関連から、日本語と中国語との対照の視点に立ち、会話における恩恵意識の中日の異同を考えて、日本人と中国人とのコミュニケーションに役立つ事例の分析を提供することを目的としている。上述のコミュニケーション能力の中の社会言語能力に関係していると考えられる。

2. 恩恵意識と「敬語表現」

蒲谷宏・他の『敬語表現』という著書の中に、日本語の敬語表現について次のような記述がある。

「もつとも『敬語表現』的な表現となるものは、自分が利益を受けるということを表す表現であり、もつとも『敬語表現』的でない表現となるものは、相手が利益を受けるということを表した表現である」(蒲谷宏・他1998、p.122)。

上の記述から見て、日本語表現の丁寧度は利益の授受と大いに関係を持つものであるといえる。つまり、より丁寧に表現しようとするれば、相手からより多く恩恵を受けるような表現を用いればよいということである。日本の社会生活の中でもそれを反映する具体的な例が随所に見られる。例えば、日本では商店などの定休日のとき、入り口のところによく次のような張り紙を見かける。

「本日は休業させていただきます。」

この張り紙の表すところは「本日休業」という意味だが、この場合の「～させていただく」は、許可を求める表現であり、書き手が読み手から休業の許可を得る形で、読み手から恩恵を受けるような意味を表すことになるから、読み手に対する感謝がこめられ、より敬語的な表現になるといえよう。

また、「本日休業」という知らせを「休業させていただきます」という許可を求める表現にするのは、「本来の表現意図はxであるが、あたかもyを表現意図としているかのように見える表現」ということになるので、上掲の著書ではこの表現方法を「あたかも表現」と名づけている。この「あたかも表現」は日本語の敬語表現としてかなり大きなコミュニケーション機能を働かせているとされる。

一方、「本日は休業させていただきます」というような場合は、中国語では“本日休息”(本日休業)と書くのが一般的である。この例でも分かるように、日本と中国との社会的背景が違うため、恩恵意識の現われ方にも異なる様相を呈している。このような違いは日本人と中国人とのコミュニケーションの障害の一つになりかねない。そこで、本文は、日本語の恩恵意識を表す「あたかも表現」を取り上げて中国語との対照の立場から考察し、日本人と中国人とのコミュニケーションの障害を取り除くための一助としたい。

具体的な考察方法としては、恩恵意識を表す日本語表現の具体的事例を挙げて、それを分析しながら、それぞれを中国語と対照して、両者のずれや、互いの言葉の干渉を見出す。最後に日本人と中国人との間でコミュニケーションが行われる際、如何にしてその障害を乗り越えることができるかという方法を考える。

3. 事例に見られる恩恵意識の日中の異同

ここで16項目の恩恵意識を表す日本語の事例を集めて、日本語と中国語との異同を考える(以下、中国語表現を例示する場合、中国語例と日本語訳にそれぞれ下線を引いたところは、日本語表現とのずれを示すものである)。

事例1：クラスでは飲み会をすることになり、先生を参加に誘う場合——相手の行動により自分が恩恵を受けるかのように表現する。

日本語では、次のような言い方が挙げられる。

- (1) a. 先生、今晚クラスに飲み会があるのですが、是非いらっしゃってください
 b. 先生、今晚クラスに飲み会があるのですが、いらしゃいませんか。
 c. 先生、今晚クラスに飲み会があるのですが、来ていただけませんか。

a文は、「相手が利益を受ける」意味を含むので、敬語的でない表現となり、そのまま先生に話したら失礼に思われる恐れが生じる。b文は、a文より「相手が利益を受ける」印象をかなり弱めたが、「自分が利益を受ける」というところまではきていないので、最も敬語的な表現とは言えない。c文は「～ていただく」という受益表現を用いたので、もっとも敬語的な言い方だといえる。

一方、このような場合、中国語では次のように言うのが一般的である。

- (2) 老师，今天晚上班里同学聚会请您一定来。(先生、今晚クラスにコンパがありますので、是非いらっしゃってください)

中国語のこの言い方の日本語訳を見れば、日本語の例(1)のaの表現と同じになり、敬語的でない表現になるのである。しかし、中国語としては、それは先生に来てほしい気持ちを「是非」という副詞で強く表現しており、誠意を強く表す効果を持っている。一方、もし例(1)のcのような最も敬語的な言い方をそのまま中国語に直訳すると、

- (3) 老师，今天晚上班里同学聚会，您能为我们来吗？

となり、中国語の表現として、誠意のないような響きがある。この例をまとめてみて、日本語の敬語的でない表現の(1)aは中国語の敬語的表現になり、逆に日本語の最も敬語的な言い方は、中国語の誠意のない表現になる。したがって、日本語の方は、受益がどちらにあるかによって敬意を決めるのに対して、中国語では、話し手が誠意を持つかどうかによって決めるのである。

事例2：先生が重そうなかばんを抱えているのを見かけた学生が先生のかばんを持ってあげようとする場合——相手に利益を与えるような表現を避ける。

- (4) a. 先生、おかばん、持ってさしあげましょう。
 b. 先生、おかばん、お持ちしましょう。

a文の「～てさしあげる」は、相手に恩恵を与える言い方になるので、恩着せがましく感じられ、先生に対して適当な表現とは言えない。日本人ならb文を選ぶのが常識的であるとされている。

この場合の中国語の礼儀的な表現は次のようになる。

- (5) 老师，我帮您拿包吧。(先生、おかばんを持ってさしあげましょう。)

となる。これも、日本語訳を見て分かるように日本語表現の例(4)aと同じ表現になるので、日

本人から見て、恩着せがましい表現となる。

一方、例(4) b の表現をそのまま中国語に訳してみたら、

(6) 老师，我来拿包吧。

となり、日本語と同じく、中国語としても一般的な表現として使える。つまり、事例 2 の場合は、(4) a、b とも、中国語に直訳して使えるのである。

事例 3：都合により会議に欠席することを連絡する場合——相手に自分の行動についての決定権を与える。

(7) a. 明日の会議は欠席します。

b. 明日の会議は欠席させていただきます。

a 文は会議に欠席することをそのまま伝える言い方なので、欠席することが当たり前のような印象を与えるのに対して、b 文は「～させていただく」という許可を求める表現を用いたため、相手から恩恵を受けることを表し、かなり敬語的である。

この場合、中国語では次のように表現する。

(8) 真不巧，明天的会不能参加了。(あいにくですが、明日の会議は参加できなくなりました)

この中国語表現では、恩恵意識が見られず、ただ「参加できなくなった」という状況だけを説明することになる。

事例 4：子供の入学試験の結果などを人に知らせる場合——自分の受利益は相手のおかげによるものにする。

(9) おかげさまで、何とか合格できました。

「おかげさまで」は日本人がよく口にする日常的な決まり文句で、相手にまったく関係のないことにも使うようになっているので、日本人の恩恵意識の典型的表現の一つといえる。このような場合、中国語では、

(10) 我孩子合格了。(うちの子は合格しました)

と事実をそのまま伝えればいいのである。

事例 5：駅のホームの駅員が乗客に白線の内側に下げさせる場合——命令表現を依頼表現の形に変える。

(11) a. 危ないから、白線の内側に下がれ！

b. 危険ですので、白線の内側に下がってください。

c. すみませんが、危険ですので、白線の内側に下がっていただけますか。

a 文は口調の強い命令なので、乗客に対して使えるとは考えられない。b 文は丁寧な命令なので、乗客に使っても失礼にならないが、それに比べて、c 文のように「～いただく」という

依頼の表現を用いることによって、もっとも丁寧な表現となる。

しかし、中国語では、

(12) 注意危険！请站到白线里面。(危険ですから、白線の内側に下がってください)

となる。この中国語の日本語訳を見て分かるように、日本語表現例の(11) bと同じであり、(11)のcのような表現には及ばない。もし、(11) cを中国語に訳したらどうなるだろう。それは、

(13) 对不起！危险！能为我站到白线里面吗？

となり、不満や皮肉が感じられる。

事例6：雨にもかかわらず、駅まで車で自分を迎えにきた人にお礼を言う場合——「～てくれる」文を「てもらう」文に変える方が丁寧である。

(14) a. 雨の中をわざわざ来てくださいます、ありがとうございます。

b. 雨の中をわざわざ来ていただきまして、ありがとうございます。

b文の「いただく」は、相手の行為を「恩恵」として受け取り、また、その行為について相手に責任を持たせない自己中心の表現であるため、「くださる」より丁寧さを多く感じる。

この場合の中国語の一般的表現は次のようになる。

(15) 这么大的雨还特意来接我，太谢谢了！ (こんな大雨の中をわざわざ迎えに来てくださいますして、本当にありがとうございます)

例(15)で分かるように、日本語表現の(14) aの方が中国語的表現である。一方、日本語表現の(14) bを中国語に訳しても丁寧に感じられる。

(16) 这么大的雨，还让您特意为我而来，太谢谢了！

ただし、この中国語訳は日本語の原文と比べて、例(16)の下線で示してあるように、2か所直訳できないところがある。一つは、「雨の中」は、直訳すれば「雨中」とか、「下着雨」となり、日本語の「雨の中」という厳しい状況が感じられない。そういう感じを出すには、どうしても“这么大的雨”(このような大雨)と言わなければならない。もう一つは、「ありがとうございます」の文頭である。これを日本語に直訳すれば“谢谢”だけで、副詞の“太”(非常に)を添えなければ感謝の気持ちを表せない。この事例から、中国語の感謝の気持ちは、厳しい状況とか、感謝の気持ちの程度を強調する表現が見られる。

事例7：授業中先生が先週教えたことについて「この問題を知っているか」と聞くととき、外国人留学生が「先週教えたから知っている」と答える場合——日本人学生なら普通の表現を受益表現にすることになる。

(17) a. はい、先生はそれを先週教えましたから、知っています。

b. はい、それは先週先生に教えていただきましたので分かっています。

a文は、事実をそのまま述べる文であるのに対して、b文は恩恵を受けるような文になるか

ら、敬語度が高くなる。また、a文は外国人留学生の言う日本語なので、その留学生の日本語能力は、まだ日本語の「あたかも表現」を十分に理解できていない段階にあると考えられる。

この場合、中国語なら、

(18) 老师上周已经讲了，知道。

と日本語のa文のままでもいい。つまり、この表現において、中国語にも日本語のような「あたかも表現」を使う必要がない。

事例8：人にお土産を渡す場合——相手に与える利益を最大限に減らす。

(19) つまらないものですが、ほんの気持ちです。どうか受け取ってください。

この例は、外国人日本語学習者の初級レベルの人でも覚えているほどの決まり文句である。日本人は、人に何かプレゼントをする時、普通のものならもちろん、たとえ高価なものであっても、お土産として相手に渡すとき、その価値を低めれば、相手にかかる負担を小さくし、より丁寧に感じられる。この例では、中国語も案外日本語と通じるところがある。

(20) 不是什么好东西，请您收下。(別にいいものでもありませんから、受け取ってください。)

ただし、中国語の場合、この表現は相手にかかる恩恵を弱めるという機能より、話し手の謙虚さを表す機能の方が強いように思われる。

事例9：一緒に食事をする場合——相手に恩を負わせない。

(21) 今日は割り勘でお願いします。

日本人の付き合いにおいて、割り勘はお互いに負担をかけないための手段である。どうしても相手を招待したいとき、ちゃんと理由をつけて、相手に負担を感じさせないようにする必要がある。例えば、

(22) 先日は大変お手数をおかけしました。感謝の印として是非ご馳走させていただきます。

というのである。一方、中国社会では、この割り勘のやり方が一部の学生を除けば、一般的なやり方ではない。

(23) 今天我请客。(今日は私がおごります。)

と言うのが普通である。中国人から見れば、一緒に食事できる人なら、もう他人ではなく、親しい関係にある仲間だから、相手をおごることは相手を親しく思っている気持ちを伝える表現になる。それで、レストランで勘定の際、中国人同士が争ってお金を払おうとする場面がよく目にする。そして、今回おごられた方は、次回でおごる、あるいは、何か機会があれば、そのお返しをするという続きになるわけである。日本人の割り勘はお互いに負担をかけないようにするための思いやりであるのに対して、中国人のおごりは、わざと相手に負担をかけて、相手に親しい気持ちを伝えることによって、お互いの関係を今後も続けていくように期待するわけである。このことは、日本人と中国人との発想の違いを明らかに物語っている。

事例10：以前に食事に招待してくれた人にまた会えた場合——受けた恩に対し、繰り返してお礼を言う。

(24) 先日はどうもご馳走様でした。

これも日本人によく見られる挨拶の一つである。一度恩恵を受けたら、その後何回も感謝の言葉を繰り返すことがある。それによって、受けた恩恵をいつまでも忘れない気持ちを伝えるのであろう。このような場合は中国人なら、日本人のように言葉で表すのではなく、食事をとおごるとかお土産をあげるなどをして、具体的な行動で感謝の気持ちを表すのである。

事例11：食事中相手にお酒を勧める場合——相手の利益になることをストレートに聞かない。

(25) a. もう一杯飲みますか。

b. もう一杯いかがでしょうか。

日本人はa文のように相手の意志をストレートに尋ねることは少なく、b文のように婉曲に表現するのが普通である。つまり、a文の「飲みますか」は直接相手の利益になることを問うわけで、相手の個人的な領域を侵すことになりかねない。それより、bの「いかが」の方は相手の具合を伺うことになるから、相手への配慮が見られる。

この場合は、中国では、特に中国東北地域では、日本社会とまったく違う状況が見られる。中国人は、

(26) 再来一杯吧。(もう一杯召し上がりましょう。)

と相手に無理やりにお酒を飲ませるのが親切の表現なのである。

事例12：使わない自転車を人にあげる場合——相手に物をあげるときでも、「あげる」という言葉を避ける。

(27) 捨てるようなものですが、よかったら使ってください。

このような表現をすれば、相手が物を受け取ったら物をあげる側が助かるかのように見えるから、恩恵を負わせる度合いが低くなる。このような場合は中国語に次のような言い方が見られる。

(28) 这个自行车反正我也不用了，你拿去把。(この自転車はどうせもう使わないから持って行ってください。)

中国語の言い方は話し手の誠意が伝えられるが、やはり、日本語ほど恩恵を負わせる度合いを弱めてはいない。

事例13：電車の中で席を譲ってくれた場合——感謝することをお詫びの表現で表す。

(29) a. どうもありがとうございます。

b. どうもすみません。

b文はお詫びの表現であるが、ここで感謝表現として使うことにより、席を譲ってくれた恩恵に対し、とても恐縮の気持ちを持つことが伝えられ、恩恵に対する感謝の気持ちが高められる。しかし、中国語では、感謝とお詫びの混用は見られない。感謝の気持ちを高めようとするには、“太”（とても）とか、“实在”（ほんとうに）といった副詞を用いるだけで、日本語ほどの工夫が見られない。

事例14：電車を降りる乗客に忘れ物のないように注意する場合——相手のためになることも懇願する。

(30) 忘れ物のないようにお願いします。

このような表現をすれば、受益は話し手側になるかのように見え、話し手の謙遜な態度が表される。このような場合の中国語表現は、

(31) 请不要忘记自己的物品。(自分の荷物を忘れないようにしてください。)

が一般的である。また、これと似たような事例は、たとえば、レストランで勘定が済んだ客が「ご馳走様」と言うのも同じである。中国人は、レストランでお金を払って、食事をするのだから、何故あの「ただで食べさせてもらった」如き言い方をしなければならないだろうと不思議に思うのである。

事例15：会社の受付が外からかかってきた電話に出る場合——いつも相手の世話になっている気持ちを表現する。

(32) いつもお世話になっております〇〇会社でございます。

この表現では、この会社はみんなのお世話によって存在しているから、常に皆さんに感謝し、そして、いつまでも支えてほしいという気持ちを伝えようとするのであろう。しかし、中国の会社ではこのような表現が見られない。中国人から見て、本当にお世話になっている相手に対しては、当然感謝の意を伝えるべきだが、まだ面識のない相手に感謝の言葉を述べるのは不自然ではないかと思われる。

事例16：AがBにCを明日学校に来させるように指示する場合——使役文を受益文にする。

(33) a. 彼に来させよう。

b. 彼に来てもらおう。

日本語では、b文を使うのが日本語らしい表現になるとされている。b文は授受関係を表わす文であるので、「彼」が来ることはこちらにとってありがたいことだという気持ちが表わされる。もし、使役の表現を使うと、論理的であるが、「彼」に対する命令になるから、強制的にさせられる感じを持つのである。しかし、中国人の日本語学習者から見れば、むしろaの文が文法的に合っていると思われる。なぜかという、それは中国語で表現すれば、

(34) 让他来一下吧。(彼に来させよう。)

と言うのである。

4. 日本語に見られる恩恵意識

日本の著名な言語学者金田一春彦氏の「日本語の特質」という文章の中に、アメリカの女流作家ルース・ベネディクトの書いた『菊と刀』の記述を引用し、日本人の恩恵意識について、次のように書いてある。

「一人の日本人を苦しめることはなんでもないことで、日本人に物を与えればよい。いつまでも、そのことを頭に持って、悩み苦しむであろう。」

また、その続きに、夏目漱石の『坊ちゃん』の例も挙げている。

「主人公が四国の中学校の教師に赴任するが、赴任先で坊ちゃんは同僚の赤シャツと釣りに行き、その船の中で、忠告を受ける。同僚にやまあらしという男がいるが、あれはあまりよくない男で、新しい教師が入ってくると、生徒をおだてて、その新しい教師を追い出そうとする。あなたは、あのような男と付き合ってはいけないと言われる。坊ちゃんは根が単純で、その忠告を受けようとするが、急にはその忠告を受け入れられない事情がある。これはどういうことかということ、坊ちゃんがはじめてその中学校に赴任してきたときに、やまあらしは坊ちゃんを角の氷屋に連れて行き一銭五厘の氷水をご馳走した。その恩があったので、坊ちゃんはどうかということ、あくる日学校へ行って、一銭五厘をやまあらしの机の上へ置いて、改めて絶交を言い渡すのだが、私はここに一人の典型的な日本人を見る。アメリカにおいては、このようなことが精神病患者の病歴録には多々見ることができるところである。」

この記述を読んで、日本人が他人から恩恵を受けたらどんなに苦しいかが分かるであろう。それは、日本人の会話に「あたかも表現」がよく使われる根本的な原因だと言えよう。上述の16項目の事例をまとめれば、日本人の恩恵意識の表し方には、次のような特徴が見られる。

(1) 相手に与える恩恵を最小限にし、相手から受ける恩恵を最大限にする

事例1の「来ていただく」、事例2の「お持ちする」、事例3の「させていただく」、事例4の「おかげさまで」などに、すべてこのような特徴が見られる。このような表現により、相手に安心感を与え、会話がスムーズに進められるのである。

(2) 相手に思いやりを持つ

割り勘は日本人の相手に対する思いやりの典型的な例といえる。それによってお互いに負担をかけないですむから、これからも気楽に付き合っていけるのである。お酒の勧め方にも日本人の思いやりの気持ちが込められている。

(3) 相手と長く付き合う気持ちを持つ

人にお土産をあげる目的は、その人に恩恵を与えるのではなく、その人に今後も付き合ってもらいたいという気持ちを伝えることにあるといえる。それで、「つまらないのですが」

とか、「ほんの気持ちだけです」という言い方をよく耳にする。また、一度受けた恩恵に対して、後々までその恩恵に対するお礼を言うのも、相手のことを大事にしているのだよというメッセージを伝えるのだと考えられる。

5. 中国語に見られる恩恵意識

上述の16項目の事例における日中対照から見て、中国人の恩恵意識の表し方は日本語とかなり違うところがある。次のように特徴をまとめられよう。

(1) 話し手の気持ちをストレートに伝える

事例1の「ぜひいらっしゃってください」、事例2の「持ってあげましょう」、事例7の「教えました」、事例11の「もう一杯召し上がりましょう」などで示されるように、中国語による恩恵意識の表し方は、ストレートに表現する特徴が見られる。

(2) 積極的に相手に近づく気持ちを強調する

中国人が人に恩恵を与える目的はその人と親しく付き合っていこうという気持ちを伝えることにあるから、その気持ちを積極的に、しかもストレートに表現するのである。そして、恩恵を受け取る側の聞き手もそれを理解し、好意として受け止め、互いのコミュニケーションがスムーズに進めるわけである。

(3) 相手と長く付き合う気持ちを持つ

中国人も日本人と同じように、相手と長く付き合う気持ちを持つものである。ただ、その気持ちの表し方が違う。中国人は相手に恩恵を与えることによって、これからも仲良く付き合ってもらいたいという気持ちを伝え、そして、恩恵を受け取る側がその恩恵をしっかりと覚えておいて、いつか機会が来たら恩返しをするのである。このような繰り返しによって互いの人間関係を維持していく。したがって、相手に与える恩恵が大きいほど、話し手の気持ちをより強く伝えることになるといえる。

6. おわりに

以上、コミュニケーション能力について、恩恵意識の日中対照を試みてみた。それによって、日中の恩恵意識の多様性及びそれぞれの特徴を改めて再認識させられた。日本語にも中国語にも恩恵意識によって積極的に人とのコミュニケーションを行おうとする気持ちが見られるが、その表現の仕方が違うことを確認できた。その違いは、ややもすると日本人と中国人とのコミュニケーションの障害になりかねない。したがって、日中間の言語によるコミュニケーションをスムーズに行うために、その障害を排除しなければならない。その方法として、次の(1)～(3)が考えられる。

(1) 日中それぞれの恩恵意識の特徴を理解し、認め合う。日本語の恩恵意識の表し方は相手にかける恩恵の負担を最大限に弱め、相手から受ける恩恵を最大限に高めることによって人と

の人間関係を保っていく。一方、中国語の恩恵意識の表し方は、相手に恩恵を与えることで、これからも仲良く付き合っしてほしいという気持ちを伝える。そして、恩恵を受け取る側がその恩恵をしっかりと覚えておいて、いつか機会が来たら恩返しをし、その繰り返しによって互いの人間関係を維持していく。このような違いを互いに理解し、認め合う必要がある。

(2) 恩恵意識の表し方が違うが、人とのコミュニケーションを円滑に実現させようという目的は同じであるから、互いに協力し合う必要がある。

(3) 実際のコミュニケーションにおいて、相互理解と相互配慮が必要である。その際、冒頭でも述べたコミュニケーション能力の①文法能力、②社会言語能力、③談話能力、④ストラテジー能力といった四つの領域の知識とスキルが必要となる。たとえば、中国人としては、中国語話者の恩恵意識から日本語話者の恩恵意識へと、適格に切り替えられる能力を持っていれば、状況に応じて円満なコミュニケーションが実現できよう。

注1：文中の日本語の事例の出典はすべて参考文献によるものである。『敬語表現』からの出典が最も多い。

注2：本研究は、中国黒龍江大学博士助成金による研究の一部である。

参考文献

1. 青木直子・他 2001 『日本語教育学を学ぶ人のために』 世界思想社
2. 奥津敬一郎・徐昌華 1981 「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現—“請”を中心に—」、『日本語教育』46号
3. 蒲谷宏・他 1998 『敬語表現』 大修館書店
4. 金田一春彦 1991 『日本語の特質』 日本放送出版協会
5. 国立国語研究所 1992 『敬語教育の基本問題（下）』 大蔵省印刷局
6. 彭 飛 2004 『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題』 和泉書院
7. 宮地 裕 1999 『敬語・慣用句表現論—現代語の文法と表現の研究（二）—』 明治書院
(中国・黒龍江大学東方言語学院)